

愛護部デイキャンプを終えて

岡田校区愛護部連絡協議会 井上 忍

松前町岡田校区に引越してきて1年半でキャンプ部長となり、必死の準備でした。部員全員で話し合いを重ね、夏休みに入ってから7月21日(土)、その日を迎えました。今年折からの猛暑で朝から汗が流れ落ちてくる状態でしたが、北公民館に子どもと大人合わせて80余名が集合。キャンプ村の村長さん(公民館長)の励ましの言葉があつて、いざ内子のフレッシュパーク

「からり」へ出発！到着後、飯ごう炊飯の準備に取りかかりました。お米は上手にとげたかなあ？さあよいよ火をおこします。ただでさえ夏の日差しが暑いのに。子どもたちも汗を流しながら火をおこしていました。火をおこしてから約40分、いよいよその時がきました。飯ごうの中のご飯の運命は？ふたを開ける前の子どもたちの顔は不安でいっぱい。

▼うまく炊けるかな？



▲おいしいおにぎりができたよ。

▼参加者全員で。はいチーズ！



開けてみると一粒一粒がつややかに光り、おいしそうに炊けていました。昔懐かしき「おこげ」だつてできていました。汗にまみれながら作って食べたおにぎり、おいしかったに違いありません。お互いに協力し合うこと、それを学べたことと思います。帰りのバスの中では、大人たちは「ぐったり」。子どもたちはまだまだ元気いっぱい！

至らないことはたくさんあったと思いますが、無事この日を終え、大勢の子どもたちと触れ合い、楽しかったですよ！

未来の大人たちへ

岡田中学校同和教育主任 仲神 正人

先日あるニュース番組で次のようなことを報道していました。

日本、アメリカ、フランス、韓国の若者たちにアンケートをしたそうです。「将来に希望がありますか。」という問いに、日本以外の国では半数以上が「希望がある。」と答えたのに対し、日本では約3割しかいなかったそうです。

その他の問いを合わせて総合的に見ると、今の若者はほとんどが今が楽しければいいという考えをしており、地位や名声(責任)を求めない人が多いという結果が出ていました。

私自身も若い時たいしたことと考えていたとは思いますが、このニュースを見てなんとなくながっかりした気分になりました。

このニュースの前に、福岡での世界水泳大会総集編を流していました。その中で、六冠を達成したイアン・ソープ選手のレースの際に、アナウンサーが「渋谷の路地に座り

込んでいる18歳もいれば、今、世界記録に向けて黙々と泳いでいる18歳もいます。」と言っていました。耳に残った言葉でした。結局、18歳で人生の目標を見つけてひたすら頑張っている人もいれば、18歳になっても目標が見つからず悩んでいる人もいますということでしょう。

今の日本には悩み続けて動けずにいる若者のほうが多いのだと思います。「希望がない。」と答えた7割の未来の大人たちに、我々今の大人は何ができるのでしょうか。

「社会や政治が悪い。」ではすまされない問題だと思います。本校の中学生や卒業生にも同じ傾向があります。地域や学校でできることは、何なののでしょうか。今の私にできることは、自分の体験や考えを通して、生徒に夢を持ち頑張り続けることの大切さを伝え、次の舞台へ送り出すことだと思っています。

がんばれ！未来の大人たちよ。